

## 「成長戦略」への危殆

政府与党は、TPP 関連対策の具体策として、JA グループの生産購買、販売事業に焦点をあて、更なる組織改革、業界再編を念頭に論議を進めている。農協改革の延長線として、またぞろ農業が衰退したのは、JA グループや関連業界の組織・事業構造にあり、そこを改革しない限り、成長産業となり得ないというのが論点だ。果たしてそうだろうか。

日本の肥料は製造業者が約 3000、約 2 万銘柄があり、韓国と比較して約 1.7~2.1 倍高い（農水省資料）という。確かに韓国のように集約化、合理化を図れば安い肥料が手に入り良いこととなる。新自由主義的に言えば正しいのだから。しかし、例えばどこに行っても、都会も地方も同じ量販店、コンビニ、飲食店など大規模化・合理化された流通・小売り業態の姿。一見便利だけれど、地方の商店街は寂れ、そこに買い物難民対策など新たな社会コストが付加される。

日本は、気候・風土や土壌、農家・産地が多様であり、そのニーズを具現化し、農業者・産地としてブランド化に应运ってきた結果として多様な肥料銘柄が生まれている。確かに価格引き下げに向けた取り組みは必要だが、今までの取り組みも踏まえた組合員論議の上になされるべきで、政治的パフォーマンス、トップダウン、今だけ・金だけ・自分だけの性急な結論、空中戦は避けるべきだ。

成熟社会に突入した日本は、過大な成長期待を排除し、分かち合い多様性を認め合う価値観、経済思想のもと、持続可能な農業・地域社会を創り、真のくらしの豊かさを求めていくことが必要ではないかと思う。  
 （常務理事 浦野邦衛）

### 【地域開発部】

#### JAグループでの大学生インターンシップ受け入れの効果



8月28日から9月3日にかけて信州エクスターンシップ（長野県主催）が開催されました。信州エクスターンシップとは首都圏の大学生を対象に、長野県内の企業で職業体験を行うとともに、就職や社会人になることへの意識を高めることを目的とした事業です。

体験先の1つである農業コースでは、JA長野中央会が事務局となり、JAグリーン長野、JAながの、農協観光を中心に学生20名を受け入れました。体験内容は、農産物の収穫・選別、Aコープ・直売所での業務体験、市場・研究所見学などです。

そして当機構は、農業コースに参加した学生に対してアンケート調査

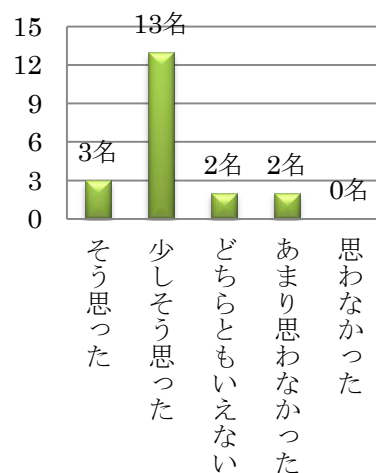
を行ったので、結果の一部を紹介します。

研修を通じた農業のイメージの変化を「良くなった」～「悪くなった」の5段階で評価してもらおうと、「良くなった」との回答者が14名、「少し良くなった」は6名でした。同様に、JAのイメージの変化では、「良くなった」が16名、「少し良くなった」は4名となり、**参加者全員の農業やJAのイメージが向上し、明確な効果が現れました。**

このように農業やJAのイメージが変わった理由としては、「JAに対して大雑把なイメージしかなかったが、研修を通じてJAの取り組みを知ることによって安心感が生まれ、イメージがよくなった」、「農業は大変そうだが、地域とのつながりが強く、やりがいのある仕事だと思った」などです。

また、研修を通じて就職先としてJAなど農業に関わる仕事に就いたり、農業をしたいと思いませんか、という質問に対しては、「そう思った」と「少しそう思った」の合計回答者数が16名でした（右図）。したがって、**学生がJAや農業に関わる仕事へ興味を持ち、就職に結びつけるためにインターンシップは有効な活動である**と考えられます。（研究員 坂 知樹）

Q. 研修を通じてJAなど農業に関わる仕事に就職したり、あなた自身が農業をしたいと思いましたが？



## 【人材銀行局】

職場  
から

『真田の郷』はおもしろい？！



「いらっしやいませ!!」と大きな声がピットに轟き、お客様をお迎えするのは㈱ジェイエイサービス本原セルフSSに勤務して3年目となる関忠則さん。本原セルフSSはJA信州うへだ管内JA-SSの中でも供給量トップを争う繁忙店！

以前のお仕事は測量関係でしたが、現在は危険物取扱資格も取得し、「良いスタッフに恵まれてありがたい」と笑顔で話し頑張っています。真田氏が上田城築城まで住んでいた「真田の郷」だけに、今年は観光客も多く道案内のサービスにも努めています。

職員  
紹介

「一般ホームセンターとの違いを出す !!」

百瀬さんは、長年JA木曾に勤務され、平成27年からは地域開発機構の職員として、JA木曾のグリーンファームきそ店の中心として頑張っています。

仕事の内容は農業生産資材の管理・販売、経理事務、接客と幅広い業務内容ですが、組合員の皆様から聞かれたことにはすべて応えられるように日々努め、店舗の営農指導員的な役割もされています。

百瀬さんのモットーは、JAの店舗として「農家の為に一般のホームセンターとの違いを出すよう努力する」とのことです。今後も農家の生産資材サービスステーション中核職員として活躍が一層期待されています。



### 平成28年度派遣等職員研修会の開催について

日時：11月17日（木） 10時30分～

場所：JA長野県ビル 12A会議室

研修内容概要：ワーク&ライフ社労士事務所（特定社会保険労務士）及び日本年金機構  
長野南年金事務所による研修

### ～編集後記～

非常に激しい雨を伴う複数の大型台風が、各地に土砂災害や河川の氾濫等の被害をもたらしています。とりわけ、1週間に3つの台風が上陸した北海道では、玉葱、ジャガイモを始めとする野菜が大きな被害を受けたため、野菜価格が例年の5割高～2倍と全国的に高騰しています。

野菜の高騰は家計を直撃しますので、今後の野菜の収穫量と価格がどうなるのか？気になるところです。皆様からの調査研究に関するお問い合わせや人材銀行への相談をお待ちしております。（Y）

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂1177番地3 JA長野県ビル11階

TEL 026 (236) 3500 (代表) /FAX 026 (236) 3505